

報道関係者各位

2009年11月17日
虎ノ門・六本木地区市街地再開発組合
森ビル株式会社

日本初の最高ランク（AAA）取得！ JHEP 生物多様性を評価

「緑の生活都心」虎ノ門・六本木地区第一種市街地再開発事業

虎ノ門・六本木地区第一種市街地再開発事業は、生物多様性の保全や回復に資する取り組みを定量評価する認証である JHEP 認証（ ）において、日本初となる最高ランク（AAA）を取得いたしました。

「事業前の過去の状況」と「事業後の状況」とを、植生や当該地域を指標する野生の生きもの（評価種）にわたっての住みやすさから自然の価値を比較し、その差を評価、ランク付けするもの。詳細は2頁参照。

開発段階から環境に配慮した取り組みを：生物多様性に配慮した質の高い緑地計画

虎ノ門・六本木地区第一種市街地再開発事業は、国際性・文化性豊かな「大街区」における新たな複合機能拠点としての街づくりを進めています。当事業は、「緑の生活都心」をコンセプトに掲げ、土地の高度利用により新たに生み出される空気を広場や緑地として整備し、潤いある都市空間の創出を目指し、開発段階から環境に配慮した様々な取り組みを行っています。生物多様性に配慮した質の高い緑地計画は、その代表的な取り組みのひとつです。

都市再開発に生物多様性の視点を取り入れた日本初の試み

緑地計画作成にあたっては、現況調査や文献調査をもとに設定した在来種や潜在自然植生に配慮し、地域の自然の再生を目指しました。

都市再開発における緑地計画に対し、生物多様性の観点を取り入れた手法（JHEP 認証）を用いて評価する取り組みは、日本で初めての試みです。評価の結果、本計画が過去30年間における緑地の価値を大きく上回るものとなり、AAA（最高ランク）の認証取得へと至りました。



虎ノ門・六本木地区第一種市街地再開発事業
外観イメージ

（2009年10月着工、2012年6月竣工予定）

当事業に参加組合員として参加する森ビルは、2008年5月、国連生物多様性条約第9回締約国会議(COP9)の「ビジネスと生物多様性イニシアチブ(Business and Biodiversity Initiative)」に参加し、「優良企業の生物多様性リーダーシップ宣言」に署名いたしました。

愛知・名古屋で開催される「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」を来年に控え、生物多様性に対する関心はますます高まりを見せています。森ビルは、当事業が今後の都市緑化におけるリーディング・プロジェクトとなるよう努めるとともに、都市域におけるエコロジカル・ネットワークを構築し、生物多様性に配慮した街のモデルづくりを進めてまいります。

【本件に関してのお問合せ先】

虎ノ門・六本木地区市街地再開発組合 事務局

森ビル株式会社 広報室 野村・一木

住所：東京都港区六本木6丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー 私書箱1号

TEL：03-6406-6606 FAX：03-6406-9306

E-mail：koho@mori.co.jp

虎ノ門・六本木地区第一種市街地再開発事業における生物多様性への取り組み

当事業は、以下の点において生物多様性の保全や回復に貢献しています。

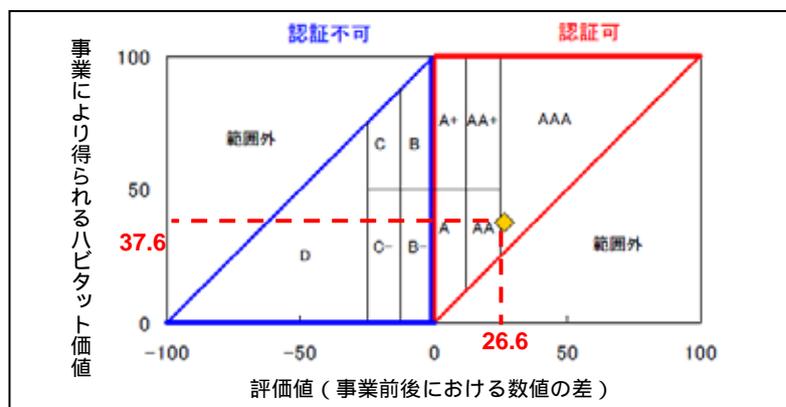
1. 在来種・潜在自然植生をベースとした緑地：
計画地の地域植生を再生する
主な在来種：スダジイ、タブノキ、アラカシ、エゴノキ、ヤマボウシ ほか
2. まとまりのある緑地：
緑化効果を高め周囲と結ぶ
3. 緑被ボリュームの高い立体的な緑地：
生きものの住みやすさに貢献する
4. 特殊な環境要素：
枯れ木・樹洞・落ち葉といった環境要素への配慮



評価にあたっては、権利変換計画が行われた 2009 年を基準年とし、過去と将来 50 年を比較し、生物多様性への貢献度を「総ハビタット価値 ()」という値をもとに定量評価しています。

総ハビタット価値：緑の質である「動物評価種の住みやすさ」と「みどりの地域らしさ」に対し、緑の量と時間を乗じた値として算出する

当事業において得られる総ハビタット価値は 37.6 (縦軸) であり、これを計画前の数値と比較するとその差 (評価値) は 26.6 (横軸) となります。これらの数値から、当事業の実施前後で、生物多様性の観点から見た緑地の価値が大きく高まることがわかり、JHEP 認証の手法を用いたランク付けにおいては、最高ランクである AAA の認証を受けています。



ハビタット評価認証 (HEP: Habitat Evaluation Procedure)

1980 年代に米国内務省により開発された、ハビタット (野生生物の生息地) の観点から自然環境を定量的に評価する手法。客観性や再現性、分かりやすさなど、合意形成ツールとしての優れた特長が評価され、現在、米国の環境アセスメントや自然再生事業において最も広く使われる手法となっている。

JHEP は、HEP の環境評価手法をもとに、(財)日本生態系協会が日本において企業等の取り組みを評価できるよう改良を加えて新たに構築したものの。生物多様性の保全や回復に資する取り組みを客観的に定量評価し、ランク付けした認証を行うことで、効果的な取り組みを普及させることを目的としている。

参考資料：森ビルの環境への取り組み

森ビルは、「Vertical Garden City（立体緑園都市）」のコンセプトのもと、「環境と緑」を街づくりにおけるミッションの1つに掲げ、緑豊かで地球環境にやさしい好環境都市の形成に貢献しています。

都市と自然の共生

開発を通じて生まれたオープンスペースや建物の屋上を積極的に緑化するだけでなく、質の高い緑の実現を目指しています。生まれた緑はヒートアイランド現象の緩和に貢献し、都市環境を改善することはもちろん、コミュニティ形成の場としても機能しています。

今後は、広大な緑のネットワークを意識し、周辺の緑とのエコロジカル・ネットワーク形成に努めるとともに、生物多様性にも配慮した街づくりをすすめます。

主要プロジェクト緑被率

名称		竣工年	緑被面積	エリア面積	緑被率
アークヒルズ		1986年	1.86ha	4.96ha	37.5%
愛宕グリーンヒルズ		2001年	1.71 ha	3.85 ha	44.4%
元麻布ヒルズ		2002年	0.55 ha	1.23 ha	44.3%
六本木ヒルズ		2003年	2.54 ha	9.59 ha	26.5%
表参道ヒルズ		2006年	0.17 ha	0.61 ha	28.4%
【参考】港区全体			417 ha	2,033 ha	20.5%

緑被率（％）＝（緑被地の面積）／（単位区域面積）

東京都「緑被率標準調査マニュアル」より

